

第4章 試験検査

試験検査業務は、行政検査と依頼検査に大別される。

行政検査としては、健康危機管理に伴う検査、食品保健に係る検査、水質検査、臨床検査等を行った。

依頼検査としては、食品検査、水質検査等を行った。

第1節 行政検査

1 健康危機管理

(感染症、食中毒等関連検査)

感染症や食中毒など健康危機の発生に対し、保健所は、迅速に原因を究明し、健康被害の拡大を防止するための初動検査を実施している。

健康被害の発生に伴い、検便や食品等検体について関係項目の検査を実施した(表1)。

このうち健康被害の原因と判明した病原微生物について、血清型、毒素型を示す(表2)。

表1 健康被害発生に伴う検査

平成30年度(単位:件)

検体の種類		便・菌株	食品・浴槽水	ふきとり	計
検体数		130	16	25	171
検査項目	腸管出血性大腸菌	83	—	—	83
	病原性大腸菌	48	—	25	73
	サルモネラ属菌	49	3	25	77
	腸炎ビブリオ	48	—	25	73
	黄色ブドウ球菌	48	—	25	73
	カンピロバクター	48	—	25	73
	セレウス菌	48	—	25	73
	ウェルシュ菌	48	—	25	73
	ノロウイルス	95	—	—	95
	エロモナス属菌	12	—	—	12
	レジオネラ属菌	—	13	—	13

ノロウイルス、レジオネラ属菌検査については保健環境センターで実施

表2 健康被害の原因と判明した病原微生物

平成30年度

発生日	検体	原因病原微生物
H30.5	便	ノロウイルス GII
5	便	腸管出血性大腸菌 05:H ⁻ (VT1)
5	便	ノロウイルス GII
5	便	カンピロバクター
5	便	ノロウイルス GI
6	便	腸管出血性大腸菌 026:H11 (VT1)
6	便	腸管出血性大腸菌 066:H25 (VT1)
8	便	腸管出血性大腸菌 0157:H7 (VT1、2)
8	便	腸管出血性大腸菌 OUT:HNT (VT2)
10	便	ノロウイルス GII
10	便	腸管出血性大腸菌 043:H2 (VT1)
11	便	サルモネラ属菌 (04、09)
12	便	ノロウイルス GII
H31.1	便	ノロウイルス GII.4
2	便	ノロウイルス GII

2 食品保健

食品製造事業者等に対し、春・夏期及び年末の食品衛生一斉監視指導に伴う収去食品について、細菌検査を実施した（表3）。

表3 食品衛生一斉監視指導等による収去検査

平成30年度（単位：件）					
区 分	食 品			合 計	
	成分規格	県指導基準	その他		
検 体 数	23	24	20	67	
検 査 項 目	細菌数(生菌数)	9	32	—	41
	大腸菌群(定性)	11	14	—	25
	大腸菌(定性)	—	18	20	38
	大腸菌(定量)	4	—	—	4
	腸管出血性大腸菌	—	—	20	20
	サルモネラ属菌	5	24	20	49
	黄色ブドウ球菌	5	24	—	29
	カンピロバクター	—	—	20	20
	腸炎ビブリオ(定性)	—	—	—	—
	腸炎ビブリオ(定量)	12	8	—	20
恒温試験及び細菌試験	—	—	—	—	

3 水質検査

海水浴場水について、管内3ヶ所の海水浴場で、開設前と開設中の年2回採水し、水質検査を実施した（表4）。

表4 水質検査 平成30年度（単位：件）

区 分		海 水 浴 場 水
検 体 数		28
検 査 項 目	p H	28
	C O D	28
	糞便性大腸菌群数	28
	腸管出血性大腸菌O157	6

4 臨床検査

H I V抗体検査として、免疫クロマトグラフィー法によるH I V迅速検査を115件実施した。